

【研究仮説（試案）】

- これまでの学校が抱える様々な問題は、学校が教師が「主語」になっていたことから起こっていたのではないか。教師が明治以来の社会の価値観に基づき、絶えず変化する時代の流れに無意識なまま（価値の吟味を行わないまま）、令和の時代になっても、教師側が用意した一定の枠組に子供たちを順応させる（押し込める）ことが「教育」「指導」であると疑わないことから起こっていると考えられる。枠に収まらない子は年々増え続けている。（不登校30万人、若者の自殺者数増加、本校の個別指導計画作成児童数100名、など）
 - 昭和の価値観（単一的）から平成に価値の多様化が進み、Society 5.0が近づいている現在、皆が均一に同じことができるようになることよりも、個々の良さをとことん伸ばし、その多様な個性が協働することで、前代未聞の課題に立ち向かえる資質・能力が必要とされるようになった。
 - 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びを実現しようという現指導要領の目指すところを、学校の中で実現して行くには、学校の主体を子供に移し、「子供が『主語』となる学校」への転換を図らなければならない。
- 子供が主体的に学習するようになると、学習意欲・学力向上の問題、いじめの問題、不登校の問題、教員の過重労働の問題等が解消に向かうだろう。

【R5年度の研究で明らかになったこと】

「主体的である（being proactive）」の定義

- 自分の言動を、自己選択・自己決定し、実行する態度
 - ・教育目標 「自立 自ら学び、考え、行動する人」
- 自分で決定したことに責任をもつ態度
 - ・言い訳をしない、人のせいにしない

児童の「主体的」な姿

- 遊びに夢中になっているときのような姿

「主体的な姿」はどんな場面で見られるか

- 協働的な学びの中で見られる
 - ・学校で（対面で）学ぶことの意義

【目指す児童像】 ? （あえて、「当てはめる」ことをしない）

- ・児童が主体的になったとき、どう変容するのかは、私たちは知らない。
- 教師の願い
 - ・教育目標の実現 「自立 自ら学び、考え、行動する人」「共生 思いやりをもち、共に生きる人」「健康 しなやかで丈夫なところとからだをもつ人」
 - ・「自らの力で幸福な人生を切り拓いていくことができる」

【目指す教師像】 こちらを研究として取り上げたい

- ・teacher から facilitator, couch, advisor へ
- ・「見取り」「(適切な) 評価」
- ・「不親切教師」

【目指す学校像】 子供が「主語」となる学校